

【試験概要】実施：大阪支店 社内試験

薬剤名	テツパン液剤
希釈倍率	1,000倍
作物名	茶
害虫名	ウンカ類、チャノキイロアザミウマ、 チャノコカクモンハマキ
実施場所	京都府相楽郡和束町
散布日	2018年7月31日
調査日	2018年8月10日



▲ 薬剤散布時の作業風景(他の区へ飛散しないように遮へい)

今回はテツパン液剤の社内試験(茶)および委託試験(ぶどう)の結果をご紹介します。テツパン液剤は石原産業(株)が開発したジアミド系殺虫剤でチヨウ目害虫やアザミウマ類、ウンカ類に効果が高く、各産地で普及を進めています。

殺虫剤

テツパン液剤



IBJ防除情報

(Ishihara Bioscience Japan = 石原バイオサイエンスの略)

試験区2連制：調査方法：1㎡あたりの害虫の捕獲数を計測
 調査基準：ウンカ類（ウンカ虫数/摘採面積（㎡））
 チャノキイロアザミウマ（スリップス虫数/摘採面積（㎡））
 チャノコカクモンハマキ（巻葉数/摘採面積（㎡））



令和2年
1月29日発行

第103号

【試験結果】

供試薬剤	希釈倍数	ウンカ類		チャノキイロアザミウマ		チャノコカクモンハマキ	
		処理前	処理後 (10日後)	処理前	処理後 (10日後)	処理前	処理後 (10日後)
テツパン液剤	1000倍	0	0	5.5	5.5	2.0	0
アタブロン乳剤	2000倍	0	1.5	5.5	5.0	0	0.5
対照A剤	2000倍	0	2.0	3.5	15.0	0	0
無処理区	—	0	0	10.0	20.0	1.5	0

ウンカ類、チャノコカクモンハマキは無処理区の発生が少なく、判然としない結果であった。
チャノキイロアザミウマは無処理区と比較し、
 高い防除効果を示した。

害虫たたき落とし調査の様子 ▶



石原の農薬適用拡大情報

2020年1月6日～1月29日までの間に適用拡大となった農薬はございません。
 引き続き、弊社製品にご愛顧を賜りたく、よろしくお願ひ致します。



センチユウ検定サービス実施中！

弊社では、圃場の土壌をご送付頂き、その土壌中のセンチユウ数を測定し、防除計画のご参考にして頂くセンチユウ検定を無料で実施しております。
 詳しくは弊社担当者へお問合わせください。

【試験概要】2019年 日本植物防疫協会委託試験

薬剤名	テッパン液剤
希釈倍率	2,000倍
作物名	ぶどう (ピオーネ、巨峰、シャインマスカット)
害虫名	チャノキイロアザミウマ
実施場所	山梨県果樹試験場内 圃場
散布日	2019年6月6日、21日、7月10日、26日、8月13日、9月6日



▲ シャインマスカットの果実被害



ピオーネの穂軸被害 ▶

2週間間隔で薬剤散布を行い、薬剤の効果を比較する。

【調査結果】

供試薬剤	希釈倍数	穂軸の被害程度別果房数*1				被害果房率	穂軸の被害度*2	薬害
		A	B	C	D			
テッパン液剤	2000倍	0	4	24	169	14.2%	3.0	—
対照B剤	5000倍	0	3	38	138	22.9%	4.4	—
参考C剤	10000倍	0	3	18	63	25.0%	5.4	—
無処理区	—	12	23	64	54	64.7%	22.3	—

*1 ピオーネ、巨峰、シャインマスカットの合計

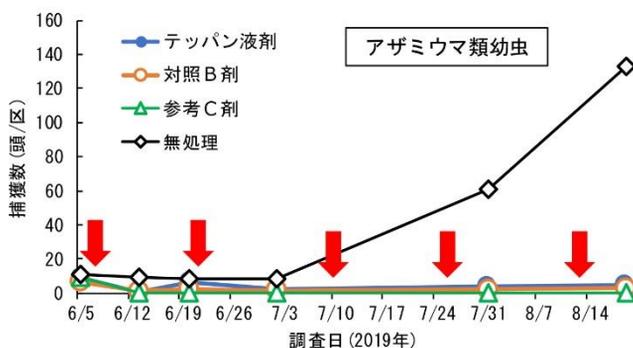
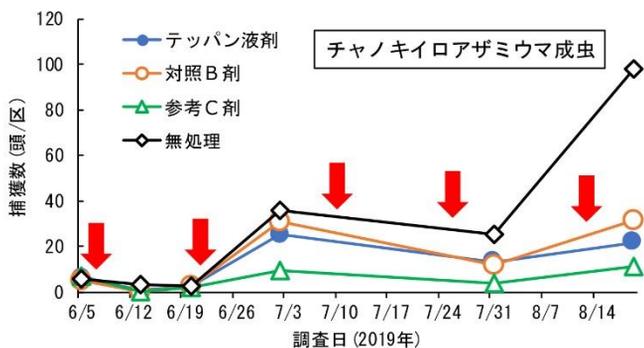
*2 A : 度合Ⅱ以上
B : 度合Ⅰ以上、Ⅱ未満
C : 度合Ⅰ未満
D : 被害部分内

被害の度合

Ⅰ…穂軸表面積1/4程度

Ⅱ…穂軸表面積1/2程度

たたき落とし調査によるチャノキイロアザミウマ成虫ならびにアザミウマ類幼虫の捕獲数 (頭/区、矢印は薬剤散布実施日)



試験結果 (考察)

- ・ 幼虫数では、いずれの薬剤も効果はほぼ同等で低い密度に維持した。
- ・ 成虫数では、参考B剤>テッパン液剤≒対照A剤の順に高い効果を示した。
- ・ 被害果房率はテッパン液剤が最も低く、穂軸の被害度はいずれの薬剤もほぼ同等であった。

幼虫密度を低く抑えたことが、高い防除効果に貢献した。



ISK 石原バイオサイエンス株式会社 本社 普及部

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-10-2

TEL 03-6256-9170 FAX 03-3263-2078

ホームページ アドレス <http://ibj.iskweb.co.jp>

